『昭和・平成・令和　旭工ラグビー部７０周年から新たな時代へ』

旭川工業高校ラグビー部前監督　平 間　愼 理

この度、本校ラグビー部が創部７０周年を迎えるにあたり、縁あって顧問としてチームに携わることができました。歴代指導者の先生方、関係者様のもとラグビーを通して長きにわたり息づき築いてこられたＯＢの方々、保護者の皆様方に改めて敬意を表すとともに、深く感謝申し上げます。

私は平成１６年、旭工に赴任し樋口先生の後任でラグビー部監督となりました。前任校ではラグビー同好会から部への昇格を経験したとはいえ１０人にも満たない少人数で７年ほどやっていたので、旭工に来て初めて選手を見たときの身体の大きさやポテンシャルの高さには驚かされました。当時は富良野高校の全盛時代で花園出場するなど間近に見ておりました。私が監督として意識したことはラグビーする以前の礼儀、挨拶や報･連･相に関わること、練習では逃げずに（自己犠牲を厭わずに）取り組むこと、反則（penalty）をしないこと、結果、練習は嘘をつかない！などだったと思います。いろいろな思いがある中で過去の戦績などを振り返ってみますと、

平成１７年度　⑫古谷 主将　　公式戦通算成績１１戦５勝６敗

支部新人戦は旭川東０－５３の新チームスタートとなりながら、支部国体予選、選抜予選を通してチーム力を上げ、高体連支部予選では旭川竜谷（当時校名）４１－０、旭川東１９－１０、決勝では富良野０－６１で敗れるものの高体連全道大会（上磯町）へ進み、１回戦・本別２０－１０、準決勝・北見北斗５－５３となり、北北海道大会３位で終えました。

平成１８年度　⑧下司 主将　　公式戦通算成績１１戦４勝７敗

支部新人戦は羽幌６２－０で新チーム好スタートをきったものの、その後支部国体予選、選抜予選を１勝止まりと苦しみます。高体連支部予選では富良野１０－２７、３位戦・旭川東４５－１４で破り全道大会出場となります。地元開催の旭工が当番校という大役の中、全校応援の花咲陸上競技場で１回戦・帯広工業４０－５、準決勝・北見北斗０－１０の接戦を落とし、北北海道大会３位で終えました。

平成１９年度　⑧佐々木（宏）主将　　公式戦通算成績９戦５勝４敗

支部新人戦は羽幌１５－２４の新チームスタートとなり、支部国体予選、富良野以外は勝ち、選抜予選でも羽幌１０－７、富良野２４－２７と戦い楽しみな展開に。しかし、高体連支部予選では羽幌１７－３４で敗れ終戦となりました。支部大会３位。

平成２０年度　⑧白田 主将　　公式戦通算成績９戦３勝６敗

支部新人戦は富良野０－６１の大敗で新チームスタート。その後支部国体予選、選抜予選を１勝止まりと苦しみます。高体連支部予選では富良野１９－８０、３位戦・羽幌５０－２６で勝つものの終戦となりました。支部大会３位。

平成２１年度　⑥牧野（祥）　主将　　公式戦通算成績８戦３勝５敗
支部新人戦は富良野１０－４５の新チームスタートとなり、その後支部国体予選、選抜予選を富良野以外は勝ち、高体連支部予選に臨みます。準決勝・羽幌６０－１０、決勝・富良野２６－３６と迫りますが２位で全道大会（北斗市）へ進みます。１回戦・遠軽１４－２９と力を出し切れず、北北海道大会３位で終えました。

平成２２年度　⑮窪田 主将　　公式戦通算成績１５戦１０勝５敗
支部新人戦は富良野４５－０の快勝で新チームスタートとなり、決勝もと気合いが入りましたが、相手・羽幌がインフルエンザのため不戦勝ながら９年ぶり２回目の優勝となりました。全道新人大会では１回戦・遠軽１０－３４で敗れ、４・５位戦・函館工業２４－１７と終えました。支部国体予選は旭川龍谷６９－０、羽幌２０－０。選抜予選でも富良野８３－０、旭川龍谷５８－７とどちらも優勝しました。続く選抜全道大会では、予選リーグ❶札幌山の手１０－４７ ❷小樽潮陵２７－５の２位通過で決勝トーナメントに進み、遠軽１２－１７と惜敗しました。高体連支部予選では富良野６３－０、決勝・羽幌２６－３１で敗れ２位で全道大会（北見市）へ進みます。１回戦・羽幌３０－２９で見事リベンジするも、準決勝・北見北斗１７－２９と敗れ、北北海道大会３位で終えました。

平成２３年度　⑧平間 主将　　公式戦通算成績１０戦５勝５敗
支部新人戦は羽幌３６－１７で決勝・旭川龍谷５－１２で敗れるも全道新人大会へは支部２枠のため２年連続出場となり、予選リーグ❶札幌山の手０－５７ ❷小樽合同２９－０の２位となり決勝トーナメントに進めず敗退。この年からＫＳＣ（支部国体予選兼選抜予選となるリーグ戦）が始まり、①羽幌・旭川東合同４６－７②富良野３３－１２③旭川龍谷２４－２９で２位となりました。高体連支部予選ではしばらく負けのなかった富良野に２４－３８、３位戦・旭川龍谷１５－１７にも敗れ終戦となりました。支部大会４位。

平成２４年度　⑬長谷川（匠）　主将　　公式戦通算成績１３戦７勝６敗
支部新人戦は富良野１４－２１の新チームスタートとなり、ＫＳＣでは①富良野２９－４０②羽幌４３－０③旭川龍谷・東合同６８－０で勝ちポイント差で選抜全道大会へ進み、予選リーグ❶全青森７－５０ ❷札幌山の手７－８０で敗者戦となり、十勝選抜２９－２８となりました。高体連支部予選では羽幌２０－１７、決勝・富良野２２－１９で⑭石川（恭）の逆転トライで競り勝ち、４４年ぶり７回目の支部優勝となりました。シード権を得た全道大会（中標津町）では１回戦・釧路工業８８－０、準決勝・富良野１９－２７で逆リベンジされ、北北海道大会３位で終えました。富良野は決勝まで進み、遠軽と同点優勝もトライ数差で花園を逃しましたが活躍を見せました。

平成２５年度　⑫佐藤（大）　主将　　公式戦通算成績１２戦６勝６敗
支部新人戦は羽幌０－４０、富良野にも連敗の新チームスタートになるも、ＫＳＣでは①羽幌３４－３１②富良野１７－１０③旭川龍谷・東合同９１－２１と２年連続で選抜

全道大会出場となり、予選リーグ❶神戸科学技術０－５９❷札幌厚別３９－７の２位通過で決勝トーナメント戦に進むも、全青森０－１２１という大負けをくらい終えました。高体連支部予選では旭川龍谷９３－０、決勝・羽幌１０－２２で２年連続優勝ならずも全道大会（札幌市）へ進み、１回戦・羽幌１２－５１と完敗し北北海道大会を終えました。後に高校日本代表候補にも挙がり、流経大→パナソニックに所属の大西 樹を擁しながらも勝つことができず無念の敗戦でした。羽幌は決勝に駒を進め遠軽に敗れるものの好結果を残しました。

平成２６年度　⑨岡崎 主将　　公式戦通算成績１１戦５勝６敗

支部新人戦は富良野・旭川東合同１２－７の新チームスタートで、羽幌・旭川龍谷合同には敗れ２位も、全道新人大会へは支部２枠のため３年ぶりの出場となり、予選リーグ❶十勝選抜２４－０ ❷北見北斗５－１９の２位となり決勝トーナメントには進めず敗退。ＫＳＣでは①羽幌・旭川龍谷・東合同、②富良野ともに敗れ終了。この年から新設：全国高等学校７人制大会が始まり、支部予選は羽幌に次ぐ２位で全道大会へ進むも、予選リーグで２戦２敗（札幌山の手、中標津）、ボウルトーナメントも敗れ（羽幌）終了。高体連支部予選では旭川龍谷４５－０、決勝・富良野２４－５０で敗れ２位で全道大会（帯広市）へ進みます。１回戦・帯広工業３６－２２で勝ち、準決勝・中標津７－５５と敗れ、北北海道大会３位で終えました。

平成２７年度　⑮水田 主将　　公式戦通算成績１２戦７勝５敗

支部新人戦は旭川龍谷・東合同１０－３１の新チームスタート。７人制支部大会は４位。ＫＳＣでは①富良野２２－５②旭川龍谷・東合同３９－５２③羽幌７８－５ながら勝ちポイント差で２年ぶりの選抜全道大会へ進み、予選リーグ❶神戸科学技術５－２９ ❷芦別５１－０の２位通過で決勝トーナメント戦に進み、つくば秀英５－４８と敗れました。高体連支部予選では羽幌２７－１２、決勝・富良野１９－１５と終了間際にモールから③今野が逆転トライし３年ぶり８回目の優勝となりました。全道大会（函館市）では、１回戦・帯広工業４１－０で完封勝ちするも、準決勝・北見北斗７－５９と完敗し、北北海道大会３位で終えました。

平成２８年度　⑧天野 主将　　公式戦通算成績１４戦８勝５敗１分け

支部新人戦は富良野１２－２６の新チームスタートで、結果３位ながらも優勝の羽幌が辞退のため繰り上がりで、全道新人大会（支部２枠）に２年ぶりの出場となり、決勝トーナメント１回戦・中標津３２－１０、２回戦・帯広工業２４－２４の同点も抽選負けで上位戦には進めず。しかしながら繰り上げ出場や助っ人選手の播くん、斉藤くんらの援助もあり這い上がってきたことに何やら運命的なことが動き始めていたように思います。７人制支部大会は４位。ＫＳＣでは①羽幌２９－３８②富良野１７－２１③旭川龍谷・東合同５０－７の３位で終了。富良野、羽幌の２強を倒さない限り全道大会へは進めないプレッシャーがのしかかります。既に全道大会当番校枠で出場決定の旭川龍谷を除き残り２枠の高体連支部予選では羽幌３５－３１で逆転勝利し、決勝・富良野１４

－５０でボロ負けも２位で地元開催の全道大会（旭川市）へ。１回戦・帯広工業５２－３８で逆転勝利、準決勝・富良野３３－２９で終了間際の逆転リベンジ勝利。いよいよ旭工２回目進出の決勝・北見北斗４７－４０で最大１４点差を追い付きロスタイムに⑫坪井（莞）の大逆転トライ勝利で創部６８年目にして初優勝を飾りました。　　第９６回全校高校ラグビー大会では、１回戦・高鍋（宮崎代表）５－６９で敗戦も力の限りを出し尽くした長い〃１年間を選手、保護者、ＯＢの皆さん、顧問は過ごさせていただきました。

平成２９年度　①谷口 主将　　公式戦通算成績８戦２勝６敗

支部新人戦は私が赴任以来、初めての合同チーム（旭川東との合同）で富良野・羽幌合同７－１９の新人チームスタート。７人制支部大会は３位。ＫＳＣでは①富良野・羽幌合同３１－３５②旭川龍谷１２－４０の３位。高体連支部予選では富良野３３－２１、決勝・旭川龍谷０－３１で敗れ２位で全道大会（小樽市）へ進みます。１回戦・中標津２４－７６と敗れ、２年連続の花園は途切れました。

平成３０年度　⑬藤原（凜）主将　　公式戦通算成績８戦２勝６敗

支部新人戦は富良野１７－５の新チームスタート（結果３位）。７人制支部大会は４位。ＫＳＣでは①富良野・旭川東合同１７－１９②羽幌・芦別・旭川高専合同１９－３１③旭川龍谷７－１０２の４位。高体連支部予選では羽幌・旭川東合同３３－２６で辛くも勝ち、決勝・旭川龍谷７－７１で敗れ２位で全道大会（遠軽町）へ進みます。１回戦・旭川龍谷０－６１と敗れ終えました。なお旭川龍谷は３９年ぶり３回目の優勝を飾りました。

平成３１年度、坪井（泰）キャプテンのもと部員２０名は２回目の花園出場に向けて日々頑張っております。もちろん、『花園』だけが全てではありませんし、そこまでに至る努力の過程が重要であると思います。部の伝統的にラグビー経験者が皆無の中、その差をいかに埋め、自分の可能性にチャレンジできるか！でしょう。

今後とも旭川工業高校ラグビー部の益々のご発展と関係者各位のご多幸とご健康を祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます

旭工ラグビーと共に

北海道旭川工業高等学校ラグビー部監督　中　澤　孝　弘

旭工ラグビー部が７０周年を迎え、このように歴史あるラグビー部の監督となったことを光栄に思っています。数々の栄光ある歴史や記録、特に平成２８年度（２０１６年）の北北海道大会を制覇し、花園の舞台に立ったことは大きな歴史の１ページになりました。前評判を覆して１回戦・準決勝を勝ち進み、北大会決勝での北見北斗高校戦は熾烈な戦いとなり、見事に逆転しての優勝は本部席で観ていた自分の眼に今でも焼き付いています。花園での１回戦高鍋高校戦も花園第３グラウンドで応援させていただきました。その時は本校に赴任するなど全く思っていませんでしたが、縁あってこのような歴史ある旭工ラグビー部を指導できることに重責も感じていますが、誇りに思っています。

時代は大きく変化し、今年度から「令和」と元号も変わり、また、ラグビー界ではワールドカップが日本、北海道でも開催される華々しい令和元年になります。前回のワールドカップで日本代表チームが南アフリカを撃破するなどホットなニュースが多く、強化も進み、メディアにもラグビーを多く取り上げられるようになりました。ラグビーに携わる者としてはうれしい限りですが、現実に高校ラグビーに目を向けると、全国で多くの高校が部員不足に直面し、過去の花園常連校や強豪校でもチームを組めない高校もあり、部員の確保に苦労し、廃部になるような高校が多々あります。ラグビーのようなコンタクトスポーツを好まない生徒が多い、経験者は一極集中している・・・との声も多く聞かれます。北海道のラグビーも一気にその波を受けており、多くの学校が部員不足に悩まされ、部員確保に苦しんでいます。厳しい練習を好まない。チームスポーツを好まない。汚れることを好まない。など現在の高校生の感覚は自分たちの想像を絶するところもあります。

旭工ラグビー部も現段階では２年生５名、１年生５名と３年生１３名が抜けるとチームが組めない状況にあります。比較的男子が多い学校でもこのような事態に陥っています。この厳しい状況を打開できるように部員確保に力を注ぎ、強化し、旭工ラグビー部が多くの OB の皆様や関係者の方々に応援してもらえるように、また旭工ラグビー部に新たな歴史を刻めるように、選手たちと共になお一層の努力をして、前に進んでいきたいと思います。

７０周年記念に際しまして、多くの OB や関係者の方々に部活動へのお力添えいただきましたことを心から感謝し、皆様のご多幸とご健康を祈念申し上げます。